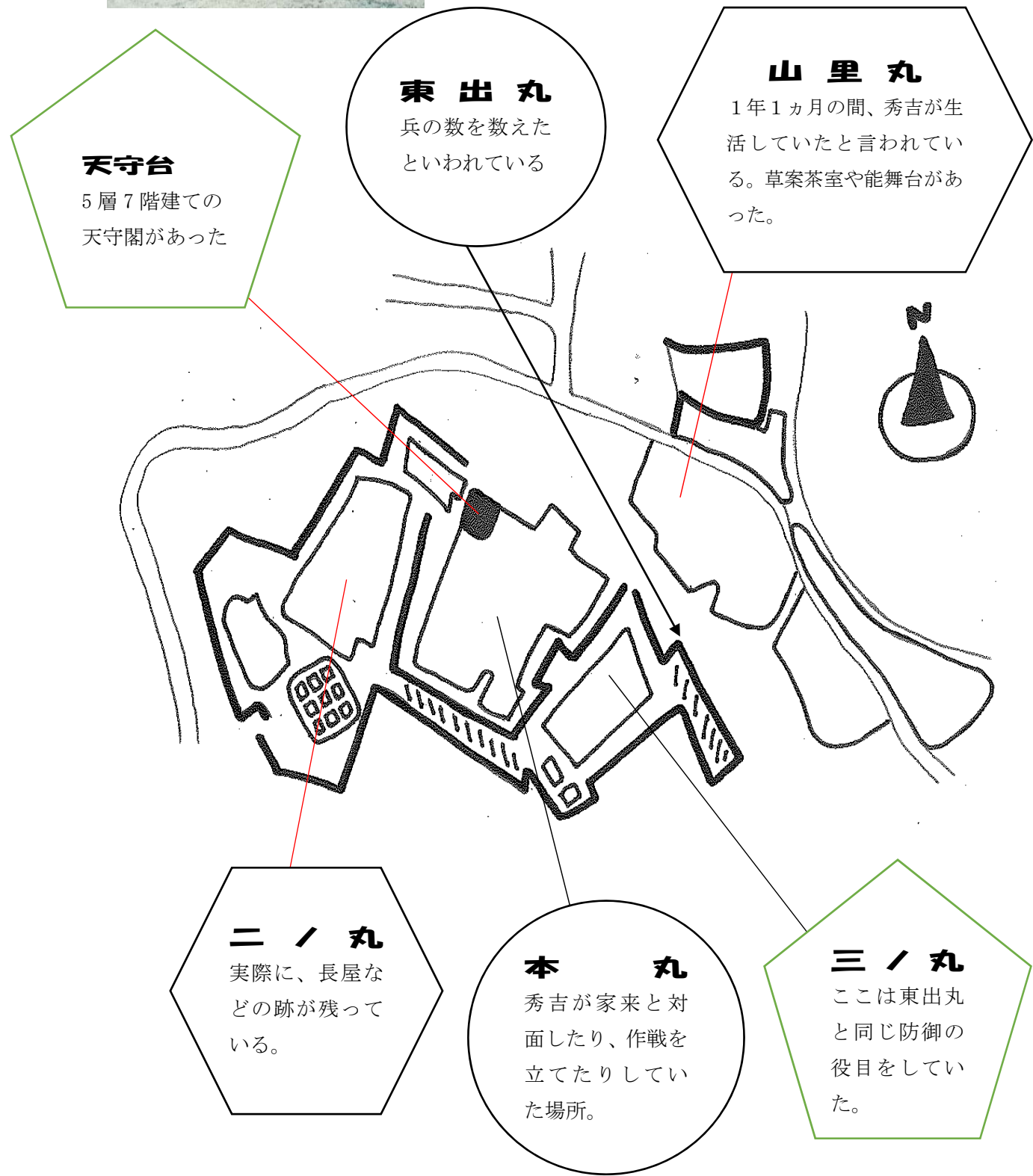




東出丸



山里丸にあるソテツ



名護屋城と関わりのある人物

豊臣秀吉

豊臣秀吉は、1536年尾張の国(愛知県)で生まれました。農民出身とみられていますが、織田信長の家臣として仕えました。本能寺の変で織田信長が倒れた後、明智光秀を破り関白まで出世しました。1590年に天下統一した後、中国大陸にまで領土を広げようと1592年に朝鮮出兵を命じました。その拠点となったのが名護屋城です。1592年から1593年の約1年間、秀吉は名護屋城で過ごしました。名護屋城の中の山里丸には秀吉の屋敷があり、そこに茶室が作られていました。それが草庵茶室です。また、有名な「黄金の茶室」も名護屋城で使われました。秀吉は自分の屋敷に能舞台を作り稽古に励み能を十番まで覚え、正室のおねに自筆で手紙を送っています。そして、1598年62歳で幼い秀頼を残して亡くなりました。



《豊臣秀吉 画像》
佐賀県立名護屋城博物館蔵



《豊臣秀吉 木造》
大阪城天守閣蔵

徳川家康

家康は、1542年三河国岡崎(愛知県岡崎市)に生まれました。1592年の文禄の役では、秀吉に従って肥前名護屋に赴きましたが、97年の慶長の役でもみずから朝鮮に渡ることはありませんでした。1598年8月家康は、五大老の筆頭となり、彼の死を隠したまま、朝鮮からの諸大名の撤退を指揮しました。翌年閏三月五大老の一人、前田利家の死後、秀吉の築いた伏見城本丸に入りました。1616年4月17日駿府城で死去しました。



徳川家康陣跡

黒田官兵衛

官兵衛は播磨(兵庫県南部)に生まれ、播磨守護赤松氏や小寺氏に仕えていました。織田信長の中国進出にわり、秀吉の右腕として活躍しました。秀吉の朝鮮出兵の際には肥前名護屋城の縄張(設計)役を担当しています。また、息子長政とともに朝鮮半島に渡りましたが、官兵衛は、無断で帰国したため、秀吉の怒りを買って一時は死を覚悟しました。これをきっかけに、官兵衛は出家して、如水軒円清と名乗るようになりました。秀吉の死後、1600年、関ヶ原の戦いで官兵衛は、父子ともども家康の勝利に大きく貢献し、九州の諸城を収めました。そして、1604年3月20日、京都の伏見にて59歳で死去しました。



黒田長政(黒田官兵衛の息子)陣跡

陣屋の地図

